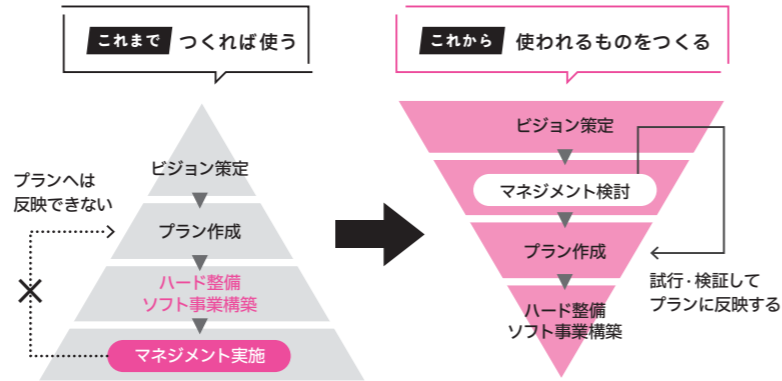


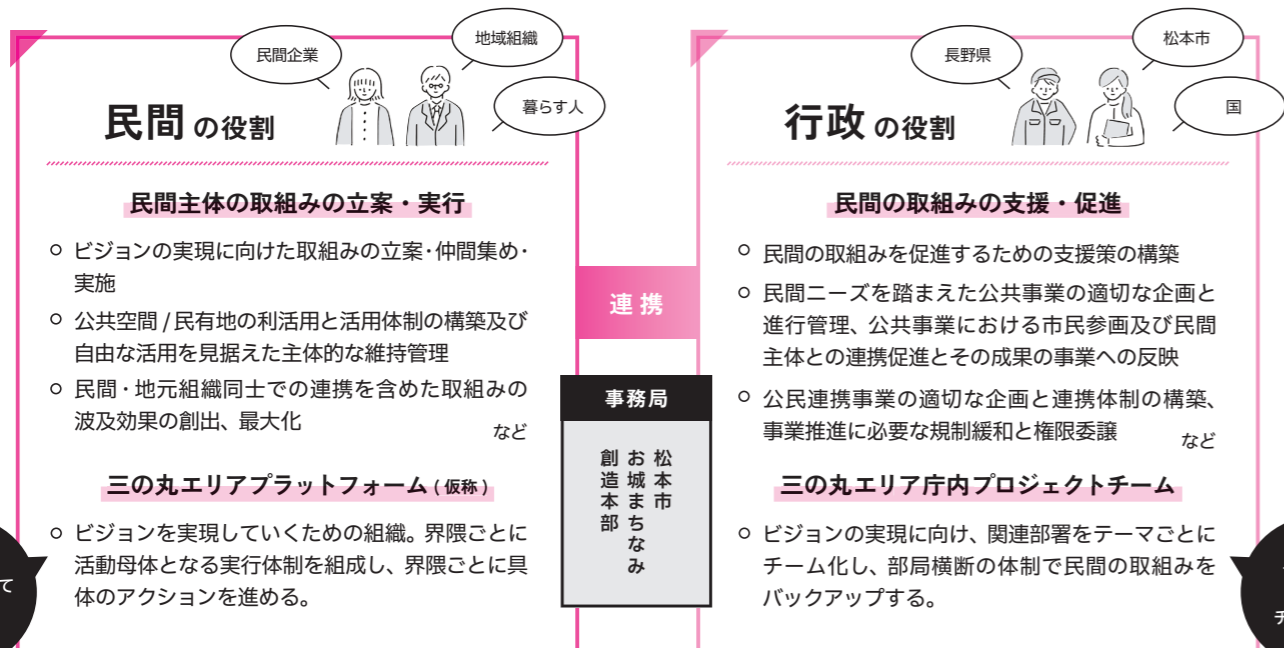
これからのまちづくり：「つくる」→「つかう」から、「つかう」→「つくる」へ

これからのまちづくりは、変化が激しい時代に柔軟に対応していくことが求められています。そういった時代では、担い手となる民間（暮らす方 / 地域組織 / 民間企業など）の「つかう」側が主体となってビジョンを掲げ、自立したマネジメントの在り方を見据えながら小さく試行と検証を重ねていくことが大切です。その検証結果をプラン作成やハード整備に反映することで、街の実情に適合した効果的な取組みが実現できます。このビジョンは、ハード中心の固定的な在り方を示すのではなく、私たちが街を「つかう」イメージを共有することを目指しています。



民間と行政の適切な役割分担によってビジョンを現実へ

ビジョン実現のためには民間と行政がそれぞれ志と責任を持ち適切な役割分担による対等な連携が必要です。松本城三の丸エリアにおいても、両者が連携しながら取組みを推進していきます。また、事業に関する企画、建物などのハード整備や施設運営などのソフト事業を行う際には、専門的な知見や幅広いアイデアを募るなど、魅力ある事業や環境を作るための適切なプロセスを構築します。



ぜひ参画してください！

テーマに応じたチーム体制

R4年度以降、ビジョンを基にした具体的な取組みを各界限にて進めていきましょう！

R4年度以降は、このビジョンの実現に向けてプレイスメイキングの考え方を参考にしながら段階的に取り組んでいきます。まずはみなさんが思い描く個別のシーンを仲間と共有することから始め、小さなチャレンジとその検証を積み重ねていきましょう。



Check!

「松本城三の丸エリアビジョン」の詳細は下記QRコードよりご覧ください！

(松本市 HP)

Area Vision 松本城三の丸エリアビジョン 概要版

このビジョンの使い方

一人一人の想いが育てる エリアの道標

このビジョンは、かつて総堀で囲まれた松本城三の丸と昭和39年に移築された旧開智学校周辺を松本城三の丸エリアとし、その二つの国宝を有する歴史ある街の中心地において、様々な形で松本に暮らす方、働く方、松本を愛する方と対話を積み重ね、公民が連携して実現するエリアの目指す姿として描いています。私たちが街を「つかう」イメージを共有し、これまでの歴史の蓄積を大切にそれぞれの得意分野を活かして、描いたシーンを1つずつ実現していきましょう。

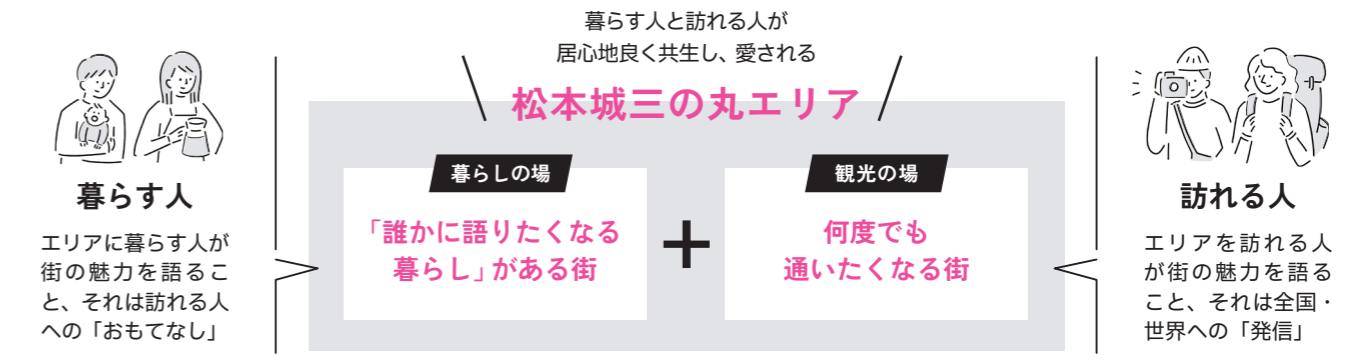
- STEP 1 エリアの豊かなシーンを想像してみる
 - STEP 2 シーンに共感する仲間を見つける
 - STEP 3 実際に小さなチャレンジをしてみる
- 描いたシーンを1つずつ実現していき

松本城三の丸エリアの合言葉

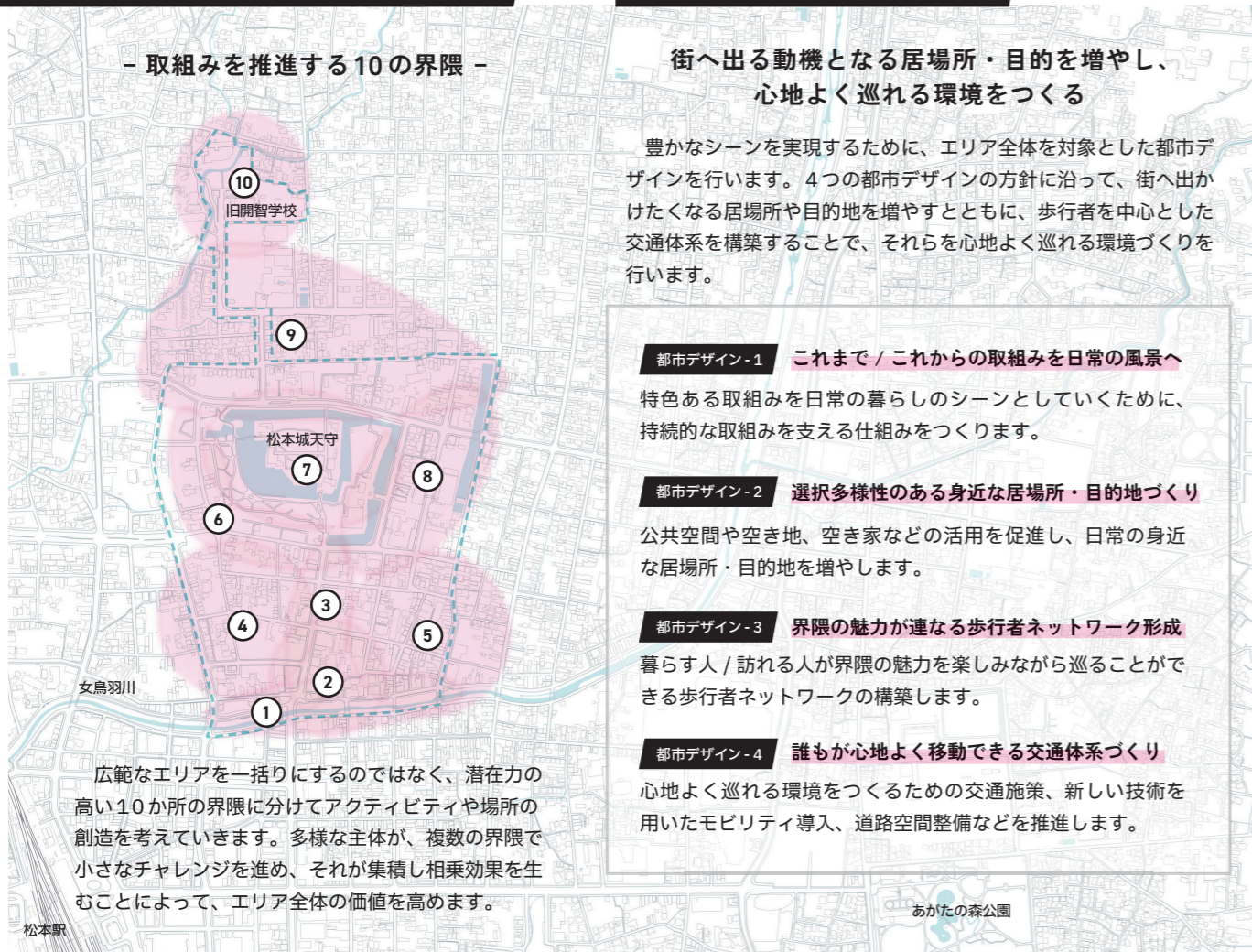
誰かに語りたくなる暮らし

<p>何気ない日々の暮らしを楽しむ</p> <p>豊かな自然、多様な文化、人とのつながりに囲まれて暮らす。生活を彩るのは人・物・事との「偶然の出会い」</p>	<p>お気に入りの居場所がある</p> <p>いつものカフェや水辺の遊び場、音楽仲間が集う店。お気に入りの居場所を複数持つ</p>	<p>チャレンジしたくなる</p> <p>趣味仲間や芸術家、起業家など、表現したい人、挑戦したい人の自由な発想と活動を受け入れてくれる</p>	<p>街の物語を感じられる</p> <p>歴史や文化や多種多様な感性。松本に暮らす喜びをお互いに語り合うことで醸成される</p>	<p>会いたい人がいる</p> <p>素敵な飲食店やショップのオーナー、若手の作家さんや山登りの仲間。趣味嗜好で繋がっていく</p>
「偶然の出会い」	「選択肢の多様さ」	「寛容さ」	「街への愛着」	「顔が見える繋がり」

暮らしの豊かさが人を惹きつける



- 取組みを推進する10の境界 -



街へ出る動機となる居場所・目的を増やし、心地よく巡れる環境をつくる

豊かなシーンを実現するために、エリア全体を対象とした都市デザインを行います。4つの都市デザインの方針に沿って、街へ出かけたい居場所や目的地を増やすとともに、歩行者を中心とした交通体系を構築することで、それらを心地よく巡れる環境づくりを行います。

都市デザイン-1 これまで / これからの取組みを日常の風景へ
特色ある取組みを日常の暮らしのシーンとしていくために、持続的な取組みを支える仕組みをつくりまします。

都市デザイン-2 選択多様性のある身近な居場所・目的地づくり
公共空間や空き地、空き家などの活用を促進し、日常の身近な居場所・目的地を増やします。

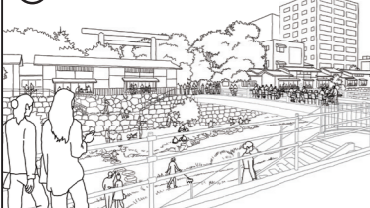
都市デザイン-3 境界の魅力が連なる歩行者ネットワーク形成
暮らす人 / 訪れる人が境界の魅力を楽しみながら巡ることができる歩行者ネットワークの構築します。

都市デザイン-4 誰もが心地よく移動できる交通体系づくり
心地よく巡れる環境をつくるための交通施策、新しい技術を用いたモビリティ導入、道路空間整備などを推進します。

広範なエリアを一括りにするのではなく、潜在力の高い10か所の境界に分けてアクティビティや場所の創造を考えていきます。多様な主体が、複数の境界で小さなチャレンジを進め、それが集積し相乗効果を生むことによって、エリア全体の価値を高めます。

境界ごとの目指す姿

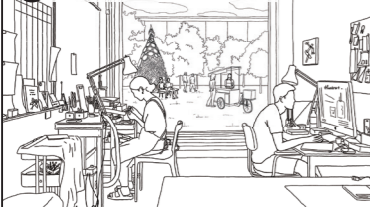
① 女鳥羽川境界



Vision 松本の豊かな水と表現活動を体感する水辺の居場所

- 取組方針**
- 河川敷や橋、建物などで居心地良く滞在し、多様な表現活動を行える・体感できる環境づくりを促進する。
 - ナワテ通りや河川敷、橋などを自由に歩き回ることのできる仕掛け（魅力づくりと空間整備）をつくる。
 - 水と緑の風景を守り、川辺を生かした活動を継続するため、草刈りなどの維持管理を持続的に行う体制を構築する。

② 松本城大手門跡境界



Vision 様々な作り手たちが育む文化が出迎える松本城の玄関口

- 取組方針**
- クラフト文化を中心とした、多様な文化の表現者（作り手）が集う民間の拠点機能を創出する。
 - 公共空間などにおける様々な文化表現の活動（マーケットや展示、ワークショップなど）を促進する。
 - エリアの玄関口として訪れる人を迎入れる雰囲気（空間的・コンテンツ的な取組みなど）を醸成する。

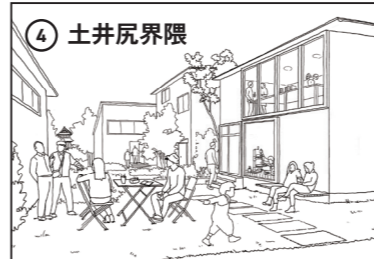
③ 大名町境界



Vision 境界の魅力がしみ出す人中心のシンボルロード

- 取組方針**
- 沿道機能（建物の低層部の用途）のしみ出しが通りを歩く人にとっての魅力となる環境をつくる。
 - 公民連携により、地元主体の持続可能な街路沿道の活用と運営を推進する仕組みを構築する。
 - 沿道建物低層部へのサービス用途誘導や道路のフルフラット化、道路と沿道建物の一体的なデザインなどの検討を行い、中長期的に人を中心とした道路空間への再編を進める。

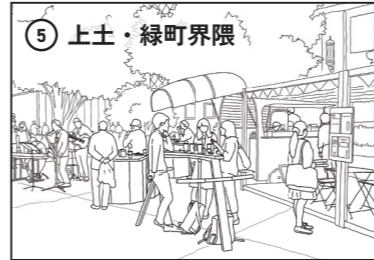
④ 土井尻境界



Vision なりわいと緩やかな人とのつながりが息づく共生の暮らしの舞台

- 取組方針**
- 空き地を活用した憩いの空間づくりなどにより落ち着いた暮らしの環境を向上する。
 - 生活に彩りを与える機能を併せ持った新たな住まいの整備などを、境界で連携して進める。
 - 移住促進の取組みとも連携し、なりわいと暮らし、地元の方と移住者の方とのつながりづくりを行う。
 - 誰もが安心して歩ける環境づくりや災害時も想定した空き地活用などによる地域防災機能の向上を図る。
 - 松本城を望む道や点在する小規模店舗を巡り、訪れる人も楽しむことのできる機会を生む。

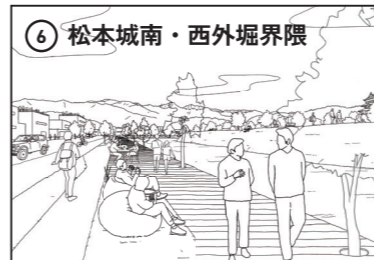
⑤ 上土・緑町境界



Vision 文化の香りと銘店の味が楽しめる日常を彩る巡り会いの場

- 取組方針**
- 辰巳の御庭や旧映画館などを核にして、境界の文化・歴史の香りをより感じられる環境をつくる。
 - 若者を中心に、音楽や映画、演劇を始め現代アートや小商いなど自由な表現活動ができる受け皿をつくる。
 - 集積する銘店の魅力がしみ出し、地元の人を訪れる人も日常的に集い楽しむことのできる場をつくる。
 - 境界を心地よく歩き回ることのできる歩行環境創出に向けた取組みを行う。

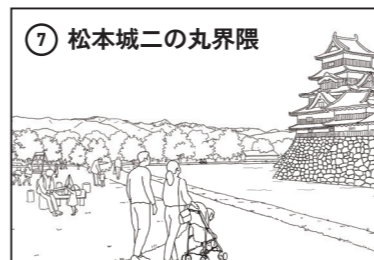
⑥ 松本城南・西外堀境界



Vision 南・西外堀 / 天守 / 北アルプスを一体に望む特等席

- 取組方針**
- 水を湛えた南・西外堀と松本城天守、北アルプスを一体的に臨む眺望環境をつくる。
 - 外堀大通りを活用し、日常的に憩うことのできる心地よい滞在空間を創出する。
 - 外堀大通りの暫定整備の段階から、暮らしに彩りを与えるマーケットなどの活用を試行する。

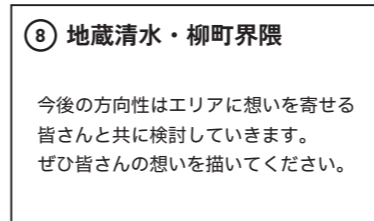
⑦ 松本城二の丸境界



Vision 象徴的な景色に暮らしの様子が重なった松本らしさを表す「画」

- 取組方針**
- 都市公園としての憩いや活用の機能と史跡としての保全のバランスを踏まえた在り方を検討することで、北アルプスと松本城天守という背景に地元の人々の暮らしのシーンが加わった情景を創出する。
 - 外堀復元に伴う松本城公園の再整備において、園内の座具のデザインや配置なども見直し、訪れた人がよりくつろぎやすい滞留空間へと改善する。
 - 地元の方や作り手などの自由な表現活動の受け皿として公園を活用しやすい仕組みをつくる。

⑧ 地藏清水・柳町境界



Vision 公園 / 道路 / 公有地が一体となった松本の新たな象徴的空間

- 取組方針**
- 新庁舎建設に関わる基本的な方向性を定めた上で、今後検討していく。

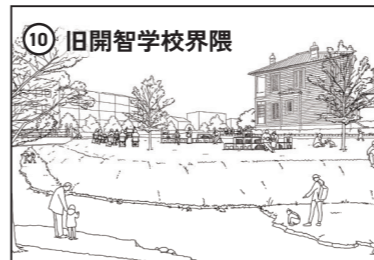
⑨ 鷹匠町・北馬場境界



Vision 暮らす人と訪れる人が緩やかに共生する2つの国宝の架け橋

- 取組方針**
- 空き家 / 空き地を活用し、日常の暮らしやすさを高める機能を導入する。
 - それにより居場所の選択肢と暮らしを感じられる接点を増やし、暮らす人と訪れる人が緩やかに共生できる環境をつくる。
 - ユニバーサルデザインの考え方に基き道路などの公共空間を改善することで、誰もが安心して巡れる環境を生み出す。

⑩ 旧開智学校境界



Vision 自然と共に学都の精神が育まれる暮らしと学びの共生の場

- 取組方針**
- 近代教育の黎明を象徴する国宝旧開智学校校舎と日常的な学びの場である図書館の存在を活かして学都の精神が育まれる環境や機会をつくる。
 - ホタルのいる大門沢川に代表される豊かな自然環境を体感できる日常の憩いの場を創出する。
 - 子どもたちが安心して通学し遊ぶことができるよう、自動車の通過交通を抑制する。
 - 境界の施設管理者は境界の将来像を共有した上で各施設の在り方を検討する。